

# 七尾市における「比較文化調査実習」「能登フィールドワーク」の実施

団体名●人文学部国際文化学科／代表者名●小西賢吾(教養教育部准教授)

## はじめに

2016年4月に設置された本学人文学部国際文化学科は、1年次からの海外留学等により培ったグローバルな視点と、ローカルな地域の文化や課題をつなぐことを学部教育の主眼の一つとしている。そのうち、比較文化学系の専門科目である「比較文化調査演習」および「能登フィールドワーク」は、2018年3月に締結された本学と七尾市の包括連携協定に基づいて、七尾市教育委員会、のと里山里海ミュージアムとの連携のもとで実施している。本活動の目的は、フィールド調査を通じてグローバル社会における能登文化の位置づけを考察し、能登文化の国際的な発信や地域文化の振興を目指すことにある。

## 活動内容

今年度はテーマを「食文化」、特にその根幹をなす調味料に設定し、七尾市の伝統的な調味料の製造現場を対象にフィールド調査を実施した。受講学生はのべ17名、調査の概要は以下の通りである。

### 1「比較文化調査演習」(第2クォーター)

於：鳥居醤油店 2019年7月20日、24日

「醤油」をテーマとする調査を行った。

### 2「能登フィールドワーク」(夏期集中)

於：能登島長崎地区(協力：能登島自然の里ながさき) 2019年8月9日、30-31日

「塩」をテーマとする調査を行った。

### 3「比較文化調査演習」(第4クォーター)

於：小山屋醤油店 2019年12月21日、2020年2月13日 「味噌」をテーマとする調査を行った。

事前学習として、能登文化の特徴を座学で学ぶとともに、調査のための基本的な撮影技術や映像編集の技術を習得した。実際のフィールドワークは、本学と七尾市を往復し、各店舗や団体、関係の方々の全面的な協力のもとで行われた。また、「能登フィールドワーク」では合宿形式の調査を行い、能登島の里山里海を体験する中で調査を進めた。



写真1 能登島での伝統的な塩作りの調査

## 成果、結果の考察

調査で得た資料をもとにして、「能登文化を国際発信するコンテンツ」を作成すべく演習を行った。特に映像制作を中心とし、撮影した映像をPC上で編集し、字幕添付などを行った。また昨年度のフィードバックをもとに、キーワードとなる概念を絞り込んで、英語での解説を作成した。2020年2月22日にのと里山里海ミュージアムにおいて報告会を開催し、同館長をはじめ関係者からの講評を受けた。



写真2 報告会

「里山里海グローバルチャンネルー七尾の食文化(調味料)編」

## 今後の課題、展望

次年度以降も、能登文化の様々な側面に焦点を当て、地域の方々との対話を通じて、地域文化の価値を発見・発信できる取り組みを続けていきたい。